
H24 年度
グローバル人材育成推進事業
実績報告

H25 年 5 月
共愛学園前橋国際大学
グローバル人材育成推進本部

目次

1 教育課程の国際通用性の向上への取組 1

1-1 教育課程の国際通用性の向上

- | | |
|--|-------------------------|
| 1-1-1 「Global Career Training 副専攻」の開設 準備 | 1-1-2 アクティブ・ラーニング環境の充実 |
| 1-1-3 留学プログラム企画に向けた提携大学拡充、視察 | 1-1-4 グローバル人材育成評価委員会の設置 |

1-2 戦略的な国内外への教育情報の発信

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1-2-1 公式 WEB の英語化 | 1-2-2 専用リーフレットの作成 |
| 1-2-3 取材対応 | 1-2-4 グローバル人材育成シンポジウムの開催 |

1-3 事務体制、学内のグローバル化

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1-3-1 グローバル人材育成推進本部事務局の設置 | 1-3-2 学内のグローバル化の推進 |
|---------------------------|--------------------|

2 グローバル人材として求められる能力の育成への取組..... 7

2-1 地域連携による人材育成“Gunma Global Project Work”

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 2-1-1 グローバル人材育成推進協議会の発足 | 2-1-2 Global Project Work 企画・設計 |
| 2-1-3 海外インターンシップ試行プログラムの実施 | |

2-2 海外留学プログラムの実施

3 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組 11

3-1 効果的な語学教育及び教育体制

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 3-1-1 入学前 TOEIC 講座の実施 | 3-1-2 入学前留学ガイダンスの実施 |
| 3-1-3 1対1 英語コミュニケーション学修試行プログラムの実施 | |

4 教員のグローバル教育力向上への取組..... 14

4-1 教育体制のグローバル化

5 日本人留学生の留学を促進するための環境整備に向けた取組 15

5-1 動機付けや留学を促進するための取組

5-2 留学中から帰国後にわたるサポート体制

1 教育課程の国際通用性の向上に向けた取組

1-1 教育課程の国際通用性の向上

1-1-1 「Global Career Training 副専攻」の開設準備

グローバル人材に必要とされる語学力、理論・スキル、実践を修得するための新カリキュラム「Global Career Training 副専攻」を教育課程に位置づけるため、「副専攻設置規程」、「同運用内規」を制定した。規定の単位数を修得することにより、同副専攻修了証が交付される正式カリキュラムとして成立、H25年度より運用することとなった。

これに伴い、学生の履修登録、修了証の発行、本学では初となる夜間(18:00-19:30)開講等に対応するよう、教育システムの制度設計を行い、必要な更新作業を行った。加えて、H25年度より学生に配布する‘履修の手引き’の改訂や専任教員が担当する科目以外の非常勤講師の手配、シラバスの作成を実施した。

《設置科目群》

- ▶Global Language Intensive 語学力育成
- ▶Global Skills 理論・スキル修得
- ▶Global Project Work 実践

《設置科目》

Global Language Intensive	English for Global Issues I/II Speaking of Japan I/II Professional Presentation I/II Internet English Business English I/II/III/IV 英語 Debate I/II Advanced Listening I/II Advanced Reading I/II Advanced Speaking I/II Advanced Writing I/II Academic Writing I/II One on One English 中国語 a/b/c/d/e/f 加海外研修 豪海外研修 I / II 米海外研修 I / II 実践中国語 I / II / III
Global Skills	Multi-Cultural Understanding Multi-Cultural Communication Team Based Learning I/II Global Leadership I/ II Global Business Training I/II Problem Based Training I/II ※全て英語で行うアクティブ・ラーニング型の授業で社会人も参加
Global Project Work	Global Project Work I /II/III/IV

1-1-2 アクティブ・ラーニング(以下「AL」)環境の充実

既に本学では、無線 LAN をキャンパス全域に配し、学生・教職員全員に配布された携帯端末を活用するユビキタスキャンパスを实践。また、新校舎 KYOAI COMMONS は AL のために建築され、Learning Commons を中心に、AL が展開されてきた。更にこの AL 環境を充実させるため、新たな機器・設備を導入した。

《導入機器・設備》

- ▶AL 用機器
 - ・天吊プロジェクタ
 - ・1 人掛け可動式机、椅子
- ▶AL FD 用機器
 - ・クリッカー付授業収録機器
 - ・授業収録機器専用動画像編集装置

【成果・所感】

今回の機器・設備導入により、100 名以上収容する大教室等を除き、全ての教室が AL 仕様に転換できた(全体の 73%)。

本学が開講している授業の約 85%が 50 名以下の受講者数であり、今回の環境整備により、教員からはグループワーク、プレゼンテーションが容易にやりやすくなるとの声があがっている。

また、同時に AL に係る FD 関連設備も導入し、AL に係る FD 研修を 2 回実施したことにより、教員の意識向上にもつながった。

1-1-3 留学プログラム企画に向けた提携大学拡充、視察

学生の海外留学プログラムの選択肢を増やすため、協定・MOU(Memorandum of Understanding)締結、視察活動を実施した。

- ▶協定・MOU)
 - ・リムリック大学 (IRL/2 月)
 - ・ワイカト大学 (NZL/2 月)
 - ・マッコリー大学 (AUS/2 月)
- ▶視察)
 - ・ミズーリ州立大学 (USA/2 月)
 - ・シンガポール国立大学 (SIN/3 月)

【協定・MOU 締結済み】

- ・リンフィールド大学(USA)
- ・西北大学(CHN)

1-1-4 グローバル人材育成推進評価委員会の設置と点検評価の実施

第三者視点による本事業取組評価を行うため、グローバル人材育成推進評価委員を委嘱し、2013年3月26日(火)に評価委員会を開催した。委員は産官学分野の第一人者であり、学術、ビジネス、教育実践、行政のそれぞれの知見から評価・助言をいただく構成となっている。

本年度は、様々な体制整備の段階であり、また試行プログラムも多いことから、事業実績について助言をいただき、かつ次年度の本格的な評価に向けてどのような視点が必要かについて議論を展開したところである。

《評価委員》

- ▶伊藤健二氏（慶應義塾大学 SFC 政策メディア研究科特任准教授）
- ▶向田忠正氏（群馬県企画部国際戦略課）
- ▶松田悠介氏（NPO Teach For Japan 代表）
- ▶田中 仁氏（株式会社ジェイアイエヌ 代表取締役）

【成果・所感】

H25 年度の本事業の本格実施に向けて、どのような視点で評価体制を構築すべきかについて、有益な助言を得ることができた。第一は、学生の視点に立った評価が必要ということ。このことについては、具体的に、学生を評価委員に入れるもしくは学生の意見を聴取する機会を設けるなどの取組が必要であるという指摘があった。次に、明確な指標を作成し、そのことを基準として評価する体制が必要であるということ。さらに、チェックをした後のアクション、すなわち改善のための工夫について具体的に示す必要があるということなどである。なお、次年度は次々年度の取組に評価を反映させるためにも、H25年12月を目途に事業の進捗を共有し、H26年1月に委員会を開催することが議論され、了承された。

1-2 戦略的な国内外への教育情報の発信

1-2-1 公式 WEB の英語化

広く海外への情報発信のため、英語版公式 WEB を3月に開設。まずは大学概要のみの公開であり、今後、詳細情報の掲載をしていく予定。

《英語版公式 WEB》 <http://eng.kyoai.ac.jp/>

1-2-2 専用リーフレット作成

本学が推進するグローバル人材育成事業専用のリーフレットを作成。県内高校約90校、県内企

業約 400 社、学内合同企業ガイダンス参加企業約 100 社、県庁、商工会議所など合計 1,000 箇所以上に配布することにより、本学の取組みの認知度を図った。

また、本事業専用の小冊子を作成し、3 月より関係各所に配布開始をした。



←対外広報用専用リーフレット

1-2-3 取材対応

本学のグローバル人材育成推進事業の取組について、取材依頼があったものは積極的に対応した結果、事業採択後の 10 月より計 10 回の取材を受け、記事に取り上げられた。

《掲載記事一覧》

- | | | |
|---------------|----------|------------------------------|
| ▶9 月 25 日(火) | 読売新聞・群馬版 | 「前橋国際大 国際人育成 英語で授業、海外就業体験」 |
| ▶10 月 14 日(日) | NEWSWEEK | 「「グローバル人材」を育成する大学」 |
| ▶10 月 15 日(月) | ぐんま経済新聞 | 「文科省授業に採択 海外就業体験、英語で授業」 |
| ▶10 月 26 日(金) | 読売新聞 | 「国際性備えた地域人育成」 |
| ▶10 月 28 日(日) | 上毛新聞 | 「世界的な人材育成 文科省事業 海外就業体験や語学向上」 |
| ▶11 月 5 日(月) | 上毛新聞 | 「世界に羽ばたく人材を 語学向上視野広く」 |
| ▶11 月 24 日(土) | ぐんま経済新聞 | 「文科省授業に採択 海外就業体験、英語で授業」 |
| ▶2 月 21 日(木) | 日経新聞 | 「専門大、国際性はぐくむ」 |
| ▶3 月 11 日(月) | 上毛新聞 | 「子どもと大人学び合う地域に 前橋国際大 協議会発足」 |
| ▶3 月 28 日(木) | 上毛新聞 | 「世界で輝く人材を 前橋国際大 育成法でシンポ」 |

1-2-4 グローバル人材育成シンポジウムの開催

本学のグローバル人材育成推進事業の取組についての対外広報の場として、3 月 26 日(火)に

シンポジウムを開催した。

《開催概要》

▶日時 2013年3月26日(火) 14:00-17:00

▶場所 共愛学園前橋国際大学 3号館 3101大講義室

▶内容

1:グローバル人材育成推進事業説明 / 大森昭生(本学国際社会学部長)

2:基調講演「グローバル人材育成とは」 / 酒井浩之氏(JTBコーポレートセールス)

3:学生による海外留学・語学研修・国際学会発表等の体験発表(3名)

4:パネルディスカッション「群馬発のグローバル人材とは」

- ・パネラー 伊藤健二氏(慶應義塾大学 SFC 政策メディア研究科特任准教授)
上石洋一氏(群馬県企画部企画課)
松田悠介氏(NPO Teach For Japan 代表)
香川憲昭氏(株式会社ジェイアイエヌ 執行役員)
- ・コーディネーター 大森昭生(本学国際社会学部長)

▶参加者 約90名

(グローバル人材育成推進協議会メンバー、地元学校教員、地元企業、地域住民、本学学生、ほか)

【成果・所感】

グローバル人材育成に関心を持った参加者であったが、約74%の参加者が本学の取組みを知らず、このシンポジウムを通して本事業の関心を高めていただく良い機会となった。

また、参加者より中高生向けシンポジウムの要望、自校での講演依頼(地元教員より)があり、本事業の目的のひとつである地域の巻き込みのきっかけとすることができた。



←パネルディスカッションの様子

1-3 事務体制、学内のグローバル化

1-3-1 グローバル人材育成推進本部の設置

10月にグローバル人材育成推進本部を理事長、学長、国際社会学部長、学長補佐、事務局次長を主要メンバーに据えて設置し、11月にグローバル人材育成推進本部事務局を開設した。同事務局の構成メンバーは事務局統括代理1名、専門員2名、事務局員3名の計6名体制である。

構成メンバーの担当は、2名の専門員が本事務局主導の海外留学・研修の企画立案・運用等に係る業務全般、事務局員が新設科目等の運営・管理、対外広報、諸事務、事務局統括代理が全体のマネジメント、となっている。

なお、専門員、事務局員は全員海外留学経験もあり、高度な語学力を有している。

【成果・所感】

グローバル人材育成推進本部、同事務局が設置されたことにより、全学的なガバナンスを担保し、学内連携、地域連携を効率よく図ることができ、本事業の取組ができた。

また、事務局が開設されたことにより、小規模大学故の教職員数の少なさを補うことができ、これまでの教育活動の質を維持しながら、多岐に渡る各種新規事業を展開することが可能になった。

1-3-2 学内のグローバル化の推進

大学のグローバル化は本事業全期間を通して行うものであるが、まずはH24年度より公式WEB、学内規程、シラバスの英語化に着手し、ほぼ完成をみた。教育体制のグローバル化に関しては後述する(4-1)。

【成果・所感】

各種の英語化を進めることで、本学をより海外へ発信することが可能となった。また、それらの作業プロセスにおいて、改めて本学のグローバル化が途上であることの認識を学内で共有できたことも、今後の取組にとって重要な成果であった。

2 グローバル人材として求められる能力の育成に関する取組

2-1 地域連携による人材育成 ～Gunma Global Project Work～

2-1-1 グローバル人材育成推進協議会の発足、キックオフイベントの開催

地域のグローバル人材育成を目的として、伊勢崎市教育委員会、サンデン株式会社、早稲田大学社会連携研究所、明治大学文明とマネジメント研究所と共に、「グローバル人材育成推進協議会(以下、「協議会」)」が H25 年 2 月に発足。

この協議会の事務局を「グローバル人材育成推進本部事務局」が担当し、発足にあたっては、設立趣意を確認し、同協議会規約を制定した。また、各団体より代表者、運営委員を選任し、その運営を円滑に行う体制を整えた。

さらに、本協議会の学内、地域認知を高めるため、キックオフイベントを 2 月 26 日に開催し、学生はもとより地域社会人、地域児童生徒の保護者を始めとする地域社会に本協議会の存在・意義をアピールし、以後の活動の契機とした。

《キックオフイベント開催概要》

- ▶日時 2013 年 2 月 26 日(火) 16:30-19:00
- ▶場所 共愛学園前橋国際大学 3号館 3101 大講義室、4号館
- ▶内容
 - 1:主催者挨拶 / 平田郁美(本学学長)
 - 2:協議会設立趣旨説明 / 大森昭生(本学国際社会学部長)
 - 3:協議会代表挨拶 / 山口晃氏(伊勢崎市教育委員会 教育長)
 - 4:記念講演 「グローバル人材育成に必要な視点」
/中原孝子氏(ASTD グローバルネットワークジャパン代表)
 - 5:レセプション
- ▶参加者 約 60 名



←グローバル人材育成推進協議会発足式

【成果・所感】

協議会発足に伴い、参加団体による会議開催等を通し、H25年度のGlobal Project Work案(後述:2-1-2)を整えることができたことは大きな成果であった。

また、海外現地法人視察研修(後述:2-1-2)が可能になったことは協議会の構成団体であるサンデン株式会社の協力によるものであり、One on One Englishの試行プログラム(後述2-1-1)を実施できたことは、以前より実証実験を協働してきた明治大学文明とマネジメント研究所が協議会に加わったことによるものである。さらに、事務局専門員が伊勢崎市教育委員会の研修会にゲスト講師として派遣要請されることや同教育委員会の連携大学であるミズーリ州立大学に視察に行くことができたことも、同教育委員会が協議会に加わったことによる。

このように、本事業を遂行することによって、協議会が発足したこと自体が、大きな成果といえる。

2-1-2 Global Project Work (以下、「GPW」)企画・設計

協議会監修により、H25年度のグローバル人材育成プログラムとして、(Gunma) Global Project Workの企画・設計を行った。

《H25年度 GPW案》

▶グローバル教育ワークショップ

グローバル教育を進めるためのテーマや手法等につき、伊勢崎市教員と学生による合同ワークショップを開催

▶児童向けグローバルワークショップ

伊勢崎市児童が参加するグローバルを体感するイベントを企画立案・運営を実施

▶ミッションコンプリート研修(海外インターンシップ)

アジア圏のサンデン株式会社の拠点訪問を含む、課題解決型研修の実施

▶サポートインターンシップ(海外インターンシップ)

伊勢崎市中学生徒のミズーリ語学研修への同行、および教員、生徒のサポートを通じ、教育現場の就業体験

▶海外拠点スタッフの招聘

サンデン株式会社の海外拠点スタッフを招聘し、伊勢崎市内学校、本学にてビジネスセミナーを開催

▶社会人受講可「Global Skills」科目開講

学生のみならず地域社会人も一緒に学ぶことができる科目の開講

2-1-3 海外インターンシップ試行プログラムの実施

協議会により H25 年度に計画されている海外インターンシップについて、試行プログラムとしてアジア圏へグローバル企業見学研修を実施した。

また、私立大学教育研究活性化設備事業補助により導入した遠隔対面学修システムを試験運用し、成功した。

《グローバル企業見学研修 実施概要》

- ▶実施日 2013年3月3日(日)～9日(土)
- ▶訪問地 タイ、シンガポール、マレーシア
- ▶内容
 - ・現地大学生との交流(バンコク)
 - ・シンガポール国立大学訪問
 - ・サンデン タイ、シンガポール事務所訪問(工場見学、現地スタッフによる海外勤務についてのレクチャー、現地スタッフと共に行うグループミーティング等)
- ・参加人数 10名

※帰国後、日本のサンデン株式会社の工場、本社、事業所を半日かけて訪問



↑(左)タイ現地法人代表からのレクチャー、(右)国内工場見学

【成果・所感】

参加した学生は、日本企業の海外における展開について学びを深めることとなったが、特に身近にある地元企業が海外において大変重要な仕事をしていることに感動を覚える者もあった。また、現地の日本人社長やスタッフの話は、学生に感銘を与え、「自分たちが勉強していることのアウトプットがここにあると感じた。」という感想を述べる者もいた。あるいは、「これまで就職は国内でするものと漠然と考えていたが、グローバルな舞台にチャレンジすることも夢となった」と振り返りのグループセッションで語った学生もいた。そして参加学生は一様に自らの勉強不足や体験不足を振り返り、帰国後も継続して勉学に取り組み、さらなる機会にはぜひとも海外体験を重ねたいという感想を持つに至っている。

なお、帰国後にサンデン株式会社の日本(群馬県)オフィス、工場を訪問したことにより、海外と国内の比較はもちろん、海外で体験したことのベースがすぐ隣にあることの実感を得るに至って

いる。

参加学生は 1, 2 年生が多数を占めており、これからの専門的な学修と就業へ向けての取り組みに対する意識向上は大きな成果と考えられる。

2-2 海外留学プログラムの実施

本事業採択後、約 1 か月半の海外留学プログラムを以下の通り実施した。

内容	行き先	大学名	期間	参加人数
語学研修	アイルランド	リムリック大学	'13 2/9-3/24	30 名
	ニュージーランド	ワイカト大学	'13 2/8-3/23	5 名
	オーストラリア	ジェームズ・クック大学	'13 2/9-3/23	13 名
		インフォーラムエデュケーション	'13 2/8-3/10	12 名
	中国	上海大学	'13 2/25-3/23	2 名

なお、本事業採択前には、以下の海外留学プログラムを実施した。

内容	行き先	大学名	期間	参加人数
語学研修	カナダ	ブリタニアカレッジ	8/12-9/9	7 名
	アメリカ	リンフィールド大学	8/25-'13 2/17	17 名
			8/25-'13 4/3	6 名
	中国	西北大学 (*交換留学)	8/10-9/10	2 名
8/10-'13 3/19			4 名	
海外フィールドワーク	インドネシア		9/10-9/18	13 名

3 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

3-1 効果的な語学教育及び教育体制

3-1-1 入学前 TOEIC 講座の実施

新入生は入学後、プレースメントテストとして、TOEIC を受験。ほとんどの学生が TOEIC 初受験のため、特徴ある TOEIC について何も知らないのが現状であり、時間配分、難易度において、躊躇する学生も多々見られた。

TOEIC というものを知ることで、戸惑うことなく受験できるようにするために、任意の入学前 TOEIC 講座を実施した。また、同時に TOEIC スコア UP も狙う。

【実施概要】

- ▶日時： 2013 年 3 月 25 日(月)、12:40-15:30
- ▶場所： 共愛学園前橋国際大学 3号館 3101 大講義室
- ▶講師： TEX 加藤 氏
※数回連続 TOEIC990 点(満点)保持、TOEIC 講座の第一人者
- ▶参加者： 108 名(cf: 入学決定者 270 名)



←TOEIC 試験の概要説明

【成果・所感】

初めての試みであったが、入学決定者の約 4 割が任意の講座であるにも関わらず参加した。参加後のアンケートにおいても、ほぼ全員が役に立ったと回答しており、入学前の語学学修の意欲を減退させず、そのまま入学後もその語学修得に向けた意欲を継続させる効果があった。

3-1-2 入学前留学ガイダンスの実施

語学力を伸ばすとともに異文化を体感し、グローバル人材としての資質を伸ばすためにも留学体験は非常に重要であることに鑑み、入学前に留学ガイダンスを実施し、より留学に興味を持ってもらうことを目的として実施した。

【実施概要】

- ▶日時: 2013年3月25日(月)、10:00-12:00
- ▶場所: 共愛学園前橋国際大学 3号館 3101大講義室
- ▶内容:
 - ・本学「グローバル人材育成推進事業」の概要説明
 - ・海外留学、研修プログラム説明
 - ・海外留学、研修体験者報告(学生)
- ▶参加者: 68名(cf:入学決定者270名)



←学生による留学体験発表

【成果・所感】

TOEIC講座同様に初めての試みであったが、入学決定者の約3割が任意のガイダンスであるにも関わらず参加した。アンケートの結果、約91%が海外留学への意向を示しており、今回のようなガイダンスは、学生に早期の留学準備を促す効果をもたらしたといえる。

3-1-3 1対1英語コミュニケーション学修 試行プログラムの実施

1対1英語コミュニケーション学修(本学での正式授業名「One on One English」)の準備を開始し、希望学生33名に対し、H25年2月-3月に施行プログラムを実施した。

このOne on One Englishは、H25年度より授業科目として導入されるものであり、インターネットを介し海外の講師と1対1で英語コミュニケーション学修を行うことを柱に据え、ATR Callによるe-Learningと組み合わせて受講することで、単位認定に見合う90分×30回の学修時間を担保するシステムとなっている。

このシステムの準備として、これまで合同実証実験を行ってきた明治大学、QQ イングリッシュとの打ち合わせを重ね、申し込み、受講状況の確認と提供等の方策について、本学で運用可能か、カスタマイズ可能かを検討した。同時に、ATR Call も本学仕様にカスタマイズし、専用サイトを立ち上げ、個々のアカウントによりアクセスするシステムを導入した。これにより、One on One 受講後すぐに ATR Call の学習が可能となる環境の実現に至った。さらに、物理的にはこれらのレッスンを受講するために、声を出したり、音を出したりしても大丈夫な個人語学学修ブースを 20 台設置、Call 教室に専用の什器を 48 席、多言語対応 PC を 8 台、e-Learning コンテンツ 1 式を設置した。



←新たに設置した語学学修ブース(20 席)

【成果・所感】

1対1の英語コミュニケーション学修(One on One English)を導入する環境を整えることができた。その環境を活用し、試行プログラムを実施したことにより、この取組の運用可能性を検証することができた。

まず、私立大学教育研究活性化設備整備事業の補助により導入した基幹ネットワークスイッチにより、学内の情報通信の安定性と速度を確保することができ、海外とのインターネット接続によるリアルタイムの動画通信が安定的に運用できるようになったが、試行プログラムにおいても語学学修ブースが有効かつ安定的にプログラムに対応できることが検証できた。

次に、学生の学修スケジュールの策定については、予定日時に受講ができなくなった場合の調整等に困難が生じることも経験し、これらを改善する仕組みを H25 年 4 月には提供できるよう課題解決に努めることができた。このように、試行プログラムを実施することによって明らかになった事柄があり、まさに試行の成果といえる。

なお、参加後のアンケートでは、満足と回答した学生が 85%(大変満足 59%、やや満足 26%)、英語力に変化を感じた学生が 71%(変化した 45%、やや変化した 26%)であり、試行プログラムは 10 回のみであったが、その効果があったといえる。一例として、海外インターンシップの試行プログラムに参加し、その直前に One on One English の試行プログラムに参加した学生の感想に「海外に行くまでに One on One English で海外の方と話をする経験を積めたことが、実際に海外に行ってから、積極的に人に話しかけることができた要因の一つである」との感想があった。

4 教員のグローバル教育力の向上

4-1 教育体制のグローバル化

教育体制のグローバル化に関し、ナンバリング制、厳格な成績評価、キャップ制の導入に関する調査のために国内外の大学に教職員を派遣した。

調査後の知見の共有のために、本学教務グループの会議において、平成 25 年度より毎月報告会を実施することが決定しており、それらを基に、本学の現状に即したカリキュラム改革を実施していくことが了解されている。

《派遣先》

国内調査： 宮崎国際大学・新潟大学・国際基督教大学・早稲田大学国際教養学部

海外調査： ミズーリ州立大学

【成果・所感】

カリキュラムの国際通用性を高めるための国内外の視察は、先進大学の知見を得ることができ、今後の本学のカリキュラム改革にとって有用であった。

5 日本人留学生の留学を促進するための環境整備

5-1 動機付けや留学を促進するための取組

早期の留学への動機付けの場として、前述(3-1-1)の通り、今年度初めての取組として、本学への入学決定者に向けた入学前留学ガイダンスを実施した。

5-2 留学中から帰国後にわたるサポート体制

留学学生を支援するために、本学国際交流センターに専門員を増補(グローバル人材育成推進本部事務局兼務)し、留学オリエンテーションや留学に関する相談等を実施できる体制を整えた。

また、留学中の支援を目的に、留学学生が交流できるSNSの活用を試行するため、クローズのFacebook ページを開設したり、LINE による交流体制を構築、試運用を開始した。

さらに、対面支援を可能とするしくみの構築に向けた実験として、私立大学教育研究活性化設備整備事業の補助により導入した遠隔対面学修システムを活用し、海外インターン試行プログラムにおいて、実際にシンガポールと本学を結び、交流・会議の実施に成功している。これにより、留学中、現地でスムーズに解決できないことから日々の些細な相談まで、リアルタイムで学生とやり取りできる環境を整備することができた。

一方、留学学生の進路支援・進路開拓のために、今年度は、企業等に対して本学の留学制度や本事業を周知するため、前橋商工会議所、伊勢崎商工会議所等を訪問、加えて個々の企業に電話による広報等を行った。

また、前橋商工会議所主催の「ものづくり指南塾」に参加する企業(地元企業 24 社)の代表者、人事担当者への本学並びに本事業に係る説明会を実施した。